

徳島県立徳島聴覚支援学校 令和7年度 学校評価 総括評価表

徳島聴覚支援学校の経営方針

(1) 徳島県教育の基本方針 【個性と国際性に富み、夢と志あふれる「人財」の育成】

個性と国際性に富み、大きな夢や高い目標を持って、自らの可能性を高め、主体的に未来を切り拓くために果敢に挑戦する力を育む「徳島ならではの」教育により、本県の宝である「人財」の育成を目指します。

(2) 徳島聴覚支援学校の使命

徳島聴覚支援学校は徳島視覚支援学校と同じ校舎内に独立して併置する全国でも類のない学校として、両校が連携・協働し、「幼児児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を行うとともに、県内唯一の聴覚障がい教育を担う学校としての役割を果たし、「共生社会の形成につながる特別支援教育」を推進します。

(3) 私たちが目指す学校

私たちは、聴覚障がいについて正しく理解し、子ども一人一人の個性を大切にして、日本語習得を基盤に据えた人間形成のための教育を進めます。

(4) 本校の教育理念

幼児児童生徒を大切に思う教職員一人一人の思いを「結ぐ(つなぐ)」ことで、幼児児童生徒や保護者の安心できる学校となることを目指します。

◆ ささえる

子ども達を中心として、家庭、医療、福祉、学校がつながることで、「子ども達の安心を支える」ことを大切にします。

◆ はぐくむ

子ども達の自立と社会参加を踏まえた教育活動を行い、「子ども達の成長を育む思い」を大切にします。

◆ 結ぐ(つなぐ)

子ども達の困っている思いに寄り添い、家庭、学校、関係機関等がそれぞれに行っている「子ども達の成長に関わる支援をつなげる」ことを大切にします。

(5) 令和7年度重点課題

① 幼児児童生徒一人一人の様々な障がい特性と教育的ニーズを踏まえた、質の高い教育・保育活動や生活指導に取り組みます。

・ICT教育のステージをさらに高め、家庭や関係機関等との連携の場での利活用を充実します。

・学校と家庭・寄宿舎等の協働性を進めることで、学習内容の有用性を高めます。

② 幼児児童生徒のライフステージを見据え、個別の教育支援計画等を関係機関と共有するとともに、幼稚部から「自己決定」「自己選択」につながるキャリア教育を推進します。

③ 聴覚障がい領域を対象とした特別支援学校として、全校的な体制のもと、本県の聴覚障がい教育充実のため、専門性の向上のための体制を構築し、持続可能なセンター的機能を発揮します。

④ 地域社会・関係機関及び卒業生が参加した学校行事や、各学校・園との交流及び共同学習を積極的に推進するとともに、卒業後の進路指導を充実させ、聴覚障がい教育の理解・啓発及びその取組内容の発信に努めます。

令和7年度 学校評価に係る重点課題 担当表

徳島県立徳島聴覚支援学校

重点課題 \ 担当部署	1 幼稚部	2 小学部	3 中学部	4 高等部	5 渉外・安全課	6 生徒活動課	7 人権・キャリア教育課	8 サポート課	9 研究・情報課	10 寄宿舍
① 幼児児童生徒一人一人の様々な障がい特性と教育的ニーズを踏まえた、質の高い教育・保育活動や生活指導に取り組めます。 ・ICT教育のステージをさらに高め、家庭や関係機関等との連携の場での利活用を充実します。 ・学校と家庭・寄宿舍等の協働性を進めることで、学習内容の有用性を高めます。	○	○	○						○	
② 幼児児童生徒のライフステージを見据え、個別の教育支援計画等を関係機関と共有するとともに、幼稚部から「自己決定」「自己選択」につながるキャリア教育を推進します。				○			○			○
③ 聴覚障がい領域を対象とした特別支援学校として、全校的な体制のもと、本県の聴覚障がい教育充実のため、専門性の向上のための体制を構築し、持続可能なセンター的機能を発揮します。								○		
④ 地域社会・関係機関及び卒業生が参加した学校行事や、各学校・園との交流及び共同学習を積極的に推進するとともに、卒業後の進路指導を充実させ、聴覚障がい教育の理解・啓発及びその取組内容の発信に努めます。					○	○	○			

【令和7年度総括評価表： ①幼稚部】

(学校名:徳島県立徳島聴覚支援学校)

自 己 評 価					学校関係者評価	次年度の課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価	学校関係者の意見	
(重点課題①) 幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生活指導に取り組む。	① 幼児が経験したことや自分の考えを人に伝えたり、友達と関わりながら生活したりすることが増えるように、教員の関わりの改善を図る。	活動計画	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価		
				(評定)		
				(所見)		
		評価指標				
		①-1 幼稚部で保育を行っている教員が保育の動画の撮影を行い、年間7回以上検討会を行う。				
		①-2 1回の検討会において、2つ以上の改善点を記録し、改善に向け実践を行う。				
		①-3 学期に1回以上、学部外の教員や管理職に学部研修に参加してもらう。				
【活動の様子・エピソード等】						

「評価」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

【令和7年度総括評価表： ②小学部】

(学校名:徳島県立徳島聴覚支援学校)

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度の課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		学校関係者の意見	
		活動計画	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価	
(重点課題①) 幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生活指導に取り組む。	①児童が集団の中で自分の考えを人に伝えたり、友達と関わりながら生活したりすることが増えるように、教員の関わりの改善を図る。	①-1 話し合い活動を行う機会を設定する。		(評定)	
		①-2 児童の話し合い活動の様子を動画撮影し、児童が積極的に発言をしたり、児童同士の関わりを活発にしたりする支援等について検討する。		(所見)	
		①-3 学期末の学部研修において、教員の関わりと児童の変容について評価する。			
		評価指標			
		①-1 1か月に1回以上、話し合い活動を行う機会を設定することができる。			
		①-2 1か月に1回以上、話し合いグループごとに教員が集まり、支援についての検討会を行うことができる。			
		①-3 各学期末の学部研修において、「教員の関わりが改善された」「児童によい変容が見られた」点をそれぞれの教員が複数上げることができる。			
【活動の様子・エピソード等】					

「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

【令和7年度総括評価表： ③ 中学部】

(学校名:徳島県立徳島聴覚支援学校)

自 己 評 価					学校関係者評価	次年度の課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	今後の改善方策
(重点課題①) 幼児児童生徒一人ひとりの障がい特性と教育的ニーズを踏まえた教育・保育活動や生活指導に取り組む。	① 主体的にコミュニケーションをする意欲や態度を育てる指導・支援を実践する。	活動計画		活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価		
		①-1 集団の中で自分の意見を述べ、話し合い活動に参加することができる機会を設定する。			(評価)		
		①-2 チェックシートを用いて記録をとることで、今後の指導・支援の方法を検討する。			(所見)		
		評価指標					
		①-1 学期に2回以上、行事等をテーマにした話し合い活動の機会を設定する。					
		①-2 学期に2回以上、検討会を行い、相手を意識した話し方、聞き方のチェック項目について生徒の変容を追い、今後の指導・支援について共通理解を図る。					
【活動の様子・エピソード等】							

「評価」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

【令和7年度総括評価表： ④高等部】

(学校名:徳島県立徳島聴覚支援学校)

重点課題		重点目標		自己評価		学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策				
				評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見					
(重点課題②) 幼児児童生徒のライフステージを見据え、個別の教育支援計画等を関係機関と共有するとともに、幼稚部から「自己決定」「自己選択」につながるキャリア教育を推進する。	①社会生活で生かせるコミュニケーション能力を身につける。	活動計画		活動計画の実施状況 評価指標の達成度		総合評価 (評価)					
		①-1 個別の教育支援計画及び個別の指導計画を活用し、生徒のコミュニケーションに関する重点目標と指導の手立て、指導の進捗状況等を学部間で共有する。									
		①-2 自立活動やHR等で学期に3回以上コミュニケーションに関する授業を実践する。									
		①-3 生徒の力が発揮できるように役割を分担し、運営の一部を生徒に任せた学校行事や話し合い活動を行う。									
		評価指標				----- (所見)					
		①-1 学期に2回以上研修会を行い、生徒の目標に対する教員の支援方法について検討し、実施する。									
		①-2 70%以上の生徒が自分の目標が行内外の諸活動で達成できたと答える。									
		①-3 評価シートを活用し、生徒の変容を継続的に把握し、指導・支援の改善に反映させる。									
【活動の様子・エピソード等】											

「評価」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

【令和7年度総括評価表： ⑤ 渉外・安全課】

(学校名:徳島県立徳島聴覚支援学校)

自 己 評 価					学校関係者評価	次年度の課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見
(重点課題①) 地域社会・関係 機関及び卒業生が 参加した学校行事 や、各学校・園との 交流及び共同学習 を積極的に推進す るとともに、卒業後 の進路指導を充実 させ、聴覚障がい 教育の理解・啓発 及びその取組内容 の発信に努める。	(渉外) ①PTA活動におい て、保護者同士の つながりを一層深 め、聴覚障がいへ の理解・啓発に努 める。 (安全) ②災害が発生した 際の一時避難施設 ・指定避難所及び 福祉避難所として、 本校職員および地 域防災関係者に向 けた適切な防災訓 練・研修を推進す る。	活動計画	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 (評定)		
		評価指標		(所見)		
		①保護者のニーズに基づいたPTA研修 会を開催し、保護者同士のつながりを 深めると共に、聴覚障がい教育への理 解・啓発に努める。 ②年間3回、視聴合同の防災訓練及び 防災学習、不審者対応訓練において、 事前に両校の防災担当職員、課長、管 理職で打ち合わせをし、お互いの学校 の実態を把握した上で計画・立案し、 訓練を実施する。 				

「評価」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

【令和7年度総括評価表： ⑥生徒活動課】

(学校名:徳島県立徳島聴覚支援学校)

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度の課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見
(重点課題④) 地域社会・関係 機関及び卒業生が 参加した学校行事 や、各学校・園との 交流及び共同学習 を積極的に推進す るとともに、卒業後 の進路指導を充実 させ、聴覚障がい 教育の理解・啓発 及びその取組内容 の発信に努めます。	(生徒指導) ①各学部におい て、幼児児童生徒 の発達や障がい特 性を踏まえた交通 安全指導の推進に 努める。	活動計画 ①幼児児童については歩行上の注意点 についての理解や、正しい横断歩道の 渡り方等を指導する。自転車を多用す る児童生徒についてはヘルメットの着 用や聴覚障がいの特性上注意すべき 点を指導し、理解を促す。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価	
				(評定)	
				(所見)	
	(特別活動) ②幼児児童生徒数 が減少してきてい るため、学部・学年 ・学級を合併するな どして、少人数から くる制約を解消し、 活発な集団活動が 行えるよう工夫す る。また、生徒が企 画・運営に関わるこ とができるような機 会を設ける。	②運動会や文化祭、とくちょー祭や予餞 会の企画・準備の際に、中高等部の生 徒が主体的に幼児児童と共に活動で きる企画となるように支援する。幼小 学部の幼児児童は、活動内容を理解し、 意欲的に参加することができるよう 支援する。			
	③各学部で近隣校 との学校間交流や 居住地交流を継続 することで経験を 広め、積極的な態 度や豊かな人間性 の構築に努める。	③各学部において、交流及び共同学習 の再開や、新たな取組について検討を 行い、積極的に推進する。			
		評価指標 ①各学部別に引き続き交通安全教室や 研修会を年間1回以上行う。中高等部 においては自転車点検を年間2回以上 実施する。			
		②学校行事において、学部・学年・学級な どを合併した内容のものを企画・運営 する。			
		③城南高校や徳島科学技術高校との交 流学習を年間3回以上開催することが できる。			
【活動の様子・エピソード等】					

「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

【令和7年度総括評価表： ⑦人権・キャリア教育課】

(学校名:徳島県立徳島聴覚支援学校)

自己評価				学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見
(重点課題②) 幼児児童生徒のライフステージを見据え、個別の教育支援計画等を関係機関と共有するとともに、幼稚部から「自己決定」「自己選択」につながるキャリア教育を推進します。	(人権教育) ① 幼児児童生徒が、より人権問題を意識できるよう、全校で取り組むことができるような啓発活動を実施する。	活動計画	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価	
		(人権教育) ① 実態やニーズ等が分かりやすいよう、人権問題意識調査を、保護者、教職員、児童生徒対象に実施する。保護者、教職員対象の人権研修も実施する。 ② 9月に思春期ピアカウンセラーとの交流を通じた人権講演会を実施する。生徒の実態に合わせた講演会にできるよう、事前打合せを入念に行う。		(評価)	
(重点課題④) 地域社会・関係機関及び卒業生が参加した学校行事や各学校・園との交流及び共同学習を積極的に推進するとともに、卒業後の進路指導を充実させ、聴覚障がい教育の理解・啓発及びその取組内容の発信に努めます。	(キャリア教育) ③ 事業所見学会を実施し、幼稚部からキャリア教育を推進する。	評価指標		(所見)	
	④ 中学部の職場体験や高等部の就業体験を通して、地域社会へ聴覚障がい教育の理解・啓発及びその取組内容を発信する。	(人権教育) ① 人権教育年間計画等に活用できるよう、人権問題意識調査の集計結果を、職員会議、人権通信等で報告する。また、人権研修において、事後アンケートを実施し、保護者及び教員から80%以上の満足を得る。 ② 生徒対象人権講演会において、事後アンケートを実施し、保護者及び教員から80%以上の満足を得る。 (キャリア教育) ③ 事業所見学会において、事後アンケートを実施し、参加者から80%以上の満足を得る。 ④ 職場体験、就業体験において、事後アンケートを実施し、企業や事業所から、聴覚障がい教育への理解が進んだ旨の回答を80%以上得る。			
【活動の様子・エピソード等】					

「評価」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

【令和7年度総括評価表： ⑧サポート課】

(学校名:徳島県立徳島聴覚支援学校)

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度の課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見
(重点課題③) 聴覚障がい領域 を対象とした特別 支援学校として、全 校的な体制のもと、 本県の聴覚障がい 教育充実のため、 専門性の向上のた めの体制を構築し、 持続可能なセンタ ー的機能を発揮し ます。	①徳島県の聴覚障 がい児教育のセン ターの機能の啓発 及び推進のための 活動を行う。 ②地域に在籍する 聴覚障がい幼児 児童生徒に対し、専 門的な支援をする とともに、その幼 児児童生徒の在籍 する学校等の担当 者に聴覚障がい教 育に関する相談活 動を行う。	活動計画	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価	
		評価指標		(評定)	
		①本校のサポート体制について、乳幼児 健診の聴カスクリーニングで訪れる保 健センター等に広報するとともに、健診 で再来所になったり、医療機関等の受 診を勧めたりした乳幼児の経過状況を 担当保健師に確認し、情報の共有と、 難聴に関する啓発を行う。 ②夏季補聴相談に来校した児童生徒の 担当教員に対して、きこえや補聴器等 の説明や各児に適する合理的配慮等 のアドバイスをを行う。			
		①乳幼児健診で訪れた保健センター等 の5か所以上に教育相談のチラシを配 付し、本校の支援活動について説明す る。乳幼児の情報共有等については、 健診の際に担当保健師と話をする時 間を作るよう務める。 ②夏季補聴相談に来校した児童生徒の 担任の8割以上に、相談児の聴力や聴 き取り状況、学校での合理的配慮等 についての説明する。その際、昨年度作 成した冊子「聴覚障がい児のきこえ・ 学び・支援」を活用する。			

【活動の様子・エピソード等】

「評価」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

【令和7年度総括評価表： ⑨研究・情報課】

(学校名:徳島県立徳島聴覚支援学校)

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度の課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価	学校関係者の意見
(重点課題①) 幼児児童生徒一人一人の様々な障がい特性と教育的ニーズを踏まえた、質の高い教育・保育活動や生活指導に取り組めます。	①思考ができる授業・保育をするためのチェックシートを活用し、授業の振り返り及び目標設定によって授業改善を行う。 ②幼児児童生徒との豊かなコミュニケーション、授業内容の円滑な伝達のため、教職員の手話力が向上する取組を行う。	活動計画	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価	
		①-1 各々が取り組む項目を「チェックシート」から選び、動画撮影による授業の振り返り、授業参観者・同授業担当者等からの助言等を参考に、具体的方策を考える。		(評定)	
		①-2 取組について自己評価を行う。		(所見)	
		評価指標			
		①-1 保育・授業や生活指導を行っている教員・寄宿舍指導員全員が、授業を振り返り、改善に向けた具体的方策を考える。			
		①-2 取組後の自己評価で、保育・授業や生活指導を行っている教員・寄宿舍指導員の80パーセント以上が、課題に「取り組むことができた」「おおむね取り組むことができた」と回答する。			
		② 希望者を対象とした手話研修を年15回以上開く。			
【活動の様子・エピソード等】					

「評価」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

【令和7年度総括評価表： ⑩寄宿舎】

(学校名:徳島県立徳島聴覚支援学校)

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度の課題と 今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価	学校関係者の意見	
(重点課題②) 幼児児童生徒の ライフステージを見 据え、個別の教育 支援計画等を関係 機関と共有すると ともに、幼稚部から 「自己決定」「自己 選択」につながる キャリア教育を推 進します。	将来の進路選択を 広げるために必要 な生活スキルと社 会的なルールやマ ナーを身につけるこ とを目指した生活 指導や生活支援に 取り組む。	活動計画	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価		
		①-1	保護者や学級担任との連携で得 られたニーズと課題を基に、舎生 一人一人の指導内容を検討す る。			(評定)
		①-2	家庭生活での般化場面を考え、 指導内容の改善を図る。			(所見)
		②	日常の生活場面や集団活動の 場で、舎生一人一人の生活ス キルやコミュニケーション能力に 応じた手段を用いて、指導や支 援を行う。			
		評価指標				
		①-1	年2回(前期・後期)、検討した指 導内容を個別の指導計画(寄宿 舎)に反映させて指導目標を立 てる。			
		①-2	指導目標は、舎生自身のやる 気を引き出し、意欲的に取り組 めるよう、担任と舎生が話し 合う機会を1回以上持つ。			
		①-3	3学期にアンケートを実施し、 指導内容の改善が図られたか、 前年度の結果と比較する。			
		②	毎回、日常の生活場面や集団 活動で社会的なルールやマナー に関する要素を取り入れて指導 を行う。			
		【活動の様子・エピソード等】				

「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった